④ワレラカ臭皮袋ヲオシンテツキニナニヽカセン（行持下　四8ウ9・中49 11）

⑤ステニ仏祖ノ道ヲシルコトアタハサランハナニヽカハセン（他心　十五30ウ4・下105 4）

⑥ナニトシテモタヽ仏法祖道ヲ自己ノ身心ニアヒチカツケアヒイトナムヲヨロコヒノソミコヽロサスヘシ（自証　十四21オ3・下47 2）

以上、単独で用ゐられるサ変動詞は、右のごとくの構文における用法がある。特に4ロabに注目すべきであらう。物語文においては4イが多く、ロは少数である点を考へ合はせても大きな特色である。さらに、単独用法においては、作用を表はす用法（例へば「声ス」「人気（ヒトケ）ス」のごときもの）、状態を表はす用法（「色ス」）がないこと、動詞連用形＋ス（例へば「フミカヨハシナドシテ」など）がほとんどないことも注目される。換言すれば、2・3の用法のないことは、5以外すべて「ス」が他動詞として用ゐられ、自動詞の用法がみられないといふことである。

注1　拙稿「正法眼蔵の語法――サ変動詞について・序説」（駒沢大学『宗学研究』10号、昭43・3）、「正法眼蔵の語法――漢語サ変動詞について――」（『名古屋大学国語国文学』26号、昭45・7）、「サ変動詞について――漢語サ変動詞の構造――」（『東海学園国語国文』1号、昭45・7）

注2　底本として、七十五巻本正法眼蔵の最古写完本たる乾坤院本を用ゐて用例を掲げる。なほ、七十五巻本以外については、後日にゆづる。

注3　ここでは「下接語」としたが、下接語を中心にみた各活用形の用法のことである。従つて、「中止法」「断止」「連体法」などもこの項に含めて述べる。

注4　（　）内の「行持下」は正法眼蔵略巻名、四12ウ1は、乾坤院本正法眼蔵の第四冊第十二丁裏第1行目の例であることを示し、中51 13は、岩波文庫本中巻51頁13行目が、ここに該当することを示す。以下用例の所在はこれに準ずる。

注5　乾坤院本「学」とあるのを「労」と訂正したことを示す。

注6　「ヒ」印は抹消記号。「オホモ（ヒ）ハク」は「オモハク」となることを示す。

注7　連体形の一用法として文を中止する機能がある。このことについては別稿を用意する。

注8　拙稿『正法眼蔵の国語学的研究』第八章第三節㈡サ変動詞の文構造（一三〇九頁～一三四八頁）、注1の「正法眼蔵の語法――サ変動詞について・序説」はこれに整理を加へたものである。

注9　注1に記した稿において用ゐた数量についても、資料として、九十五巻本＝永平寺版（岩波文庫を主体として）を用ゐてをり、又、岩波文庫に別輯として収載されてゐるものも同様に扱つたので、資料のとり扱ひに問題があつた。従つて本稿では、その点に鑑み、七十五巻本について精査し、他の十二巻本、及び、その他若干の巻の用例については、資料の検討を充分行つた上で、本稿の結果とも対照して扱ふべきものと考へる。

注10　岩波文庫本（永版寺版本文）では、この部分が「ス」ではなく「愛ス」とあることを示す。以下もこれに準ずる。

注11　大久保道舟氏編『道元禅師全集』においては「重雲堂式」は下巻に「清規」類として収載されてゐる。

⑪実相ノ言ヲ虚説ノコトクシテサラニ老子荘子ノ言句ヲ学ス（諸法　九20ウ9・中239 5）

⑫ツキニ一丸ノ土ヲサキノコトクシテ略シテ触手ヲアラフ（洗浄　十一23オ2・上110 10）

⑬一手ニシテ揖スルニハ手ヲアホケテ指頭スコシキカヽメテ水ヲ掬セントスルカコトクシテ頭ヲイサヽカ低頭セントスルカコトク揖スルナリ（洗浄　十一23ウ10・上111 12）

この4例がすべてであり、ゴトク＋シテに限られる。このシテは接続助詞ではなく「～ヲ～ノヤウナ状態ニスル」の意味である。

5意志・推量を表はす（77例）

イ　ムトス（75例）

①コレヨリノチニナホ山奥ヘイラントセシチナミニ有頌スルニイハク…（行持上　三48オ3・中25 12）（未然形の例、2例）

②スナハチ仁者心動トイハントシテハ仁者心動ト道取スルハ六祖ヲミズ六祖ヲシラズ（恁麼　四33ウ7・上428 7）（連用形の例、8例）

③不知ノクニヽイラントス（行持下　四2オ5・中40 5）（終止形の例、15例）

④心モシ不観ナラントスルニモ随他去スルカユヘニ心モシアレハ観モアルナリ（分法　十二28オ9・下19 12）（連体形の例、47例）

⑤人間眼ノ金屑ヲナサントスレトモアヤマルトイフ人ナシ（仏性　一22オ3・上330 10）（已然形の例、3例）

この例は、合はせて75例ある。助動詞ムズとは異なり、未然形、連用形の用例もみられる。

ロ　終止形＋トス（2例）

①コノ道理ヲ道取スルトシテ如来道ハ空本無花ト道取スルナリ（空花　三28オ9・中169 15）

②異域ノ山川ヲワタリシノキテ道ヲトフラフトスレトモ洗運カナシムヘシイクハクノ白法カサキタチテ滅没シヌランオシムヘシ〳〵（洗面　十44オ7・中306 8）

①は「道取セントシテ」、②は「トブラハントスレトモ」の意であり、①は「道取スルモノトシテ」（4ロbに当る）の意ではない。なほ、①は「道取スル」と連体形であるが、終止形の代用であろう。

6慣用句（26例）

慣用句としては、次のやうなものがある。1～4のいづれかに分類することもできるのであるが、一応別に扱つて慣用句としておく。

イカニシテカ　21例、イカガセン　1例、ナニカセン　1例、ナニニセン　1例、ナニカハセン　1例、ナニトシテモ　1例

このほか、ここには入れなかつたが、カクノゴトクス（及びその活用）26例も慣用的ではある。なほ、シカウシテ（9例）も元来はサ変動詞を含むものであるが、接続詞として扱つておく。

①イカニシテカ行仏ノ威儀ヲ測量セン（行仏二7ウ9・上351 15）

②動スルハイカヽセントイフハ動スレハサラニ仏性一枚ヲカサヌヘシト道取スルカ（仏性　一31オ4・上342 8）

③和尚モチヰヲカフテナニカセン（心不　二21ウ10〔乾本脱文〕・上264 2）

（行持下　四11オ9・中509）

⑤厠中ノ洗浄ニハ冷水ヲヨロシトス（洗浄十一27オ6・上115 14）

⑥コノ十二時中ハイツレノ時節到来ナリトカセンイツレノ国土ナリトカセン（仏性　一27オ7・上337 5）

⑦不行ニサエラルトヤセン自己ニサエラルトヤセン（行持下　四22オ9～10・中629）

①～⑤の如き構文のものが28例、⑥⑦のやうなものが59例と多数みられる。特に⑥⑦のやうな「――ナリトカセン」「――ナリトヤセン」の語は、経典、語録にみられる「為―為―」や「為復―為復―」「為復―為当―」をかうよんだもの、又は、それにあたるものである。なほ①③④は体言格部分が「―ナリ」といふ一語のやうにみえるが、この性格はやはり「文」であり、又、⑤は一語であるが、aの例にみられる語とは性格を異にし、一語の文とみるべきである。

ハ形容詞連用形・形容動詞連用形又は副詞相当句＋ス（39例）

形容詞の場合（12例）

①胡説乱道ヲカマヒスシクスルヲ仏祖ノ家風ト錯認セリ（行持下　四25オ8・中6514）

②タレノカタヲヒトシクスルカアラン（行持下　四4オ2・中424）

③爪ヲナカクスヘカラス（洗浄　十一21オ9・上108 10）

この例としては、カマヒスシクス5、ミシカクス1、ナカクス1、ヒトシクス2、タタシクス1、ムナシクス1、クハシクス1で計12例ある。これは1イの「タヤスクス」にみられたものとは異なる。このタヤスクは、その仕方をいふのであり、右の形容詞は結果の状態を示すといふ違ひがある。以下の形容動詞の場合も、副詞相当句の場合も同様である。

形容動詞の場合（23例）

⑤ナンチヲナイカシロニセンコトアルヘカラス（道得　七32ウ8・中141 9）

⑥森羅ヲアツメテイヨヽカニセルナリ（空花三25オ6・中166 8）

これに類するものは、他に、ミタリニス、イタツラニス、ナホサリニス及び、少々趣が違ふが「イカニカスヘキ」といふのがそれぞれ1例づつある。漢語＋ニがスの上にくるものもこの類例である。

⑦行持ヲ専一ニスルナリ（行持下　四15ウ2・中555）

⑧シカアレハ学道ヲ審細ニスヘキナリ（嗣書八33オ7・上240 8）

⑨洗浄如法ニシテ浄潔ナラシムヘシ（洗浄十一25ウ3・上113 14）

この類に属するものとしては、審細ニス6・専一ニス1・如法ニス2・堅固ニス1・倉卒ニス1・卒爾ニス2・子細ニス1・親切ニス1・専修ニス1・狼藉ニス1で計17例である。

その他の場合（4例）

⑩コノ道理シツカニ思量功夫スヘシ見聞セサルカコトクシテサシヲクヘキニアラス（伝衣七26オ3・上210 11）

まさに動詞連用形そのものと考へられるやうな例（例へば、「うち叩かせなどもせんに」源氏帚木、「参りまかでし給ふを」源氏薄雲、のごときもの）は全く見られず、右例のごとく転成名詞化したもの（コソゲ〳〵・チカヘ〳〵はすこし別であるが）しかない。

以上、1に関するものは全体として少ない。慣用句としたイカニシテカ・ナニトシテモはここに入れることもできる。

2・3は、これに属する用例は、正法眼蔵にみられない。先稿で僅かであるが示した用例は、七十五巻本中にはなく、その例のある「重雲堂式」巻は正法眼蔵の中に入れられるものか否かも問題があるものである。(注11)

4 認定・変化の状態を表はす（441例）

イ 体言格＋ニ＋ス（14例）

①コノ十方ヨリキタレル菩薩声聞ノ名位ヲヒトツニセス（画餅　五19ウ2・中147 3）

②タトヘハ人ノ夜間ニ手ヲウシロニシテ枕子ヲ摸擦スルカコトシ（観音　四40オ5・中93 4）

③拝ノアヒタ知客ハ拝席ノキタニヲモテヲ南ニシテスコシキ施主ニムカイテ叉手シテタツ（看経　六32ウ10・上310 11）

④シカウシテノチ手巾モトノコトク脱シトリテフタヘニシテ左臂ニカク（洗面　十46オ3・中308 9）

⑤吾髄ヲ汝得セルアラハ身心ヲ床座ニシテ無量劫ニモ奉事スルナリ（礼拝　六10オ1・上120 3）

⑥月輪ノコトク円ニシテ浄竿ニツケ列セリ（洗浄　十一23ウ1・上111 4）

「ニ」の上が和語のもの9例と、漢語のもの5例である。いづれにしても非常に少ない。ナニカハセン、ナニニカセンといふ慣用句的表現はここに入れることもできる。

ロ 体言格＋ト＋〔係・副助詞〕＋ス（388例）

a 体言格部分が一語であるもの（301例）

①四祖禅師ハ身命ヲ身命トセス（行持下　四15オ7・中55 1）

②ネカフベキヲネカヒハツベキヲハチトセン（行持下　四17ウ2・中57 7）

③所積ノ功徳ヲ挙セルヲ形名トシ命脈トセリ（山水　六16ウ6・上218 15）

④ソノ長短好悪ヲトクヲ転法輪トシ説法トセス（十方　十一30ウ3・中337 12）

⑤玄沙ノ道カクノコトクナリトイエトモ参学ノ力量トスヘキトコロアリ（行仏　二14オ5・上359 3）

⑥虚空有形段ヲ仏祖ノ道取トス（諸法　九23オ2・中241 10）

⑦認賊為子ヲ却迷トスルニアラス（大悟　二33オ5・上392 11）

⑧ナンチナニヲヨムテカ大近トスル（他心　十五32ウ1・下107 15）

b 体言格部分が一句又は一文のもの（87例）

①ソレヨリコノカタ二十八祖正伝セリコレヲサカリナルトシ微妙最尊ナルトセリ（諸法　九21オ6〜7・中239 11）

②玄沙ノ道ハ道ニアラストセントキシカイフヘカラス（他心　十五33ウ6・下109 3）

③タレカコレヲ最尊ナリトシ無上ナリト印スルコトアラン（嗣書　八30オ7・上237 6）

④国ノマレナリトスルトコロ人ノ難逢ナリ

そのほかは、5、1イ、4ハ、4イがややまとまつて出現し、1ロは少なく、2、3は全く例がみられない。なほ、4の「認定・変化の状態」と、3の「状態」は紛しいが、3が「――デアル」の意の状態を示すものであるに対し、4は「～ヲ～ト（ニ）スル」の意の構文である。又、6の慣用句は、他のいづれかに強ひて属させることもできるが、慣用的性格のつよいものを別掲したのである。2・3は、源氏物語における用法を分析してえた構文であり、源氏物語には、1ロ、4イと共にかなりみられた。正法眼蔵においてはさしあたり不要であるが、項目としてかかげ、その用例のないことを明らかにしておくものである。なほ、スの性格としては、5が自動詞であるほかは、すべて他動詞である。自他別語とすべきであるといふ扱ひ方も勿論考へられるが、自他が入り乱れるといふものではなく、自動詞は5に限定され分明であるので一括して扱ふ。

㈣用例

1動作行為を表はす（ヲ型）（49例）

イ〔体言㋐〕＋〔ヲ㋑〕＋〔係㋒・副助詞〕＋〔副詞㋓〕相当語句〕＋ス（44例）

①漱口タヒ〳〵㋓スレハスヽキヽヨメラル（洗面　十40ウ3・中302 9）

②ツヰニ生長㋐トキトヽモニシテ㋓果成必然ナルモノナリ（無情　十8ウ3・中275 8）

③イマノ庸流タヤスクス㋓ヘキニアラス（仏経　十21オ7・中264 7）

④アルイハ六拝アリ頭モテ地ヲタヽクイハク額ヲモテ地ヲアテヽウツナリ血イツルマテモス㋓（陀羅　十30ウ9・中290 2）

⑤カナラス右手ニテス㋓ヘシ（洗浄　十一26ウ1・上115 1）

⑥大師ノ薬山ノタメニス㋓ル道㋐ナリ（恁麼　四36ウ4・上431 10）

⑦カクノコトクス㋓レハ訕謗ノ魔党ニオカサレス（礼拝　六9オ10・上119 9）

⑧ヨノツネニ結跏趺坐㋑ヲス（行持上　三57ウ5・中362＝愛ス）[注10]

以上のうち、⑥は類例が5例、⑦は26例ある。⑧は「愛ス」であれば、ここには該当しない。他本いづれも「愛」字があり、恐らくこの構文の珍しい点からも「愛ス」の方が正しいのであらう。この構文は右側にみられるごとく、㋐㋑㋒㋓の全部がそろつてあるものはなく、スが殆んど単独で用ゐられるもので、㋒がある例は見られなかつた（はじめから、㋒を除外した構文とすることも可能であるが、これも源氏物語の用例を分析してえた構文の型式であるので、あえて除かなかつた）。

ロ動㋐詞連用形＋〔係㋑・副助詞〕＋ス（5例）

①ヒコロハツリスル㋐人ニテアレハモロ〳〵ノ経書ユメニモカツテイマタミサリケレトモコヽロサシノアサカラヌヲサキトスレハカタエニコユル志気アラハレケリ（一顆　二17オ6・上89 14）

②舌ヲコソケ〳〵㋐スルコト三返スルナリ（洗面　十40ウ8・中302 13）

③カノ伝蔵ヤマヒシケル㋐ニ隆禅ヨク伝蔵ヲ看病シケルニ…（嗣書　八36オ4・上243 6）

この他に「チカヘ〳〵シテ」が一例あるのみ（②は類例がもう一例ある）、これらの㋐が動詞連用形に発してゐることは疑ないが、

。**ドモ**下接例（3例）

・タトヘハ昨日ノワレヲワレトスレトモ昨日ハケフヲ第二人トイハンカコトシ（大悟二36オ2・上395 13）

・異域ノ山川ヲワタリシノキテ道ヲトフラフトスレトモ洗運カナシムヘシイクハクノ白法カサキタチテ滅没シヌラン（洗面　十44オ7・中306 8）

前者は仮定条件、後者は確定条件をあらはすものである。

。**ド**下接例（1例）

・風雨シハ〳〵オカサントスレト空ニアトセリ色ニアトセルソノ功徳ヲイマノ人ニヲシマサルコト減少セス（面授　十一6オ4・中315 15）

この例は確定条件を表はしてゐる。

バは8例中、仮定条件5例、確定条件は1例、場合を表わすものが2例であり、ドモは3例中、確定条件2例、仮定条件1例である。

以上、スの下接語によつて活用形の用法をみつつ用例を掲げたが、次に、単独で用ゐられるサ変動詞がいかなる構文において用ゐられてゐるのか、文の構成上において検討してみる。これは、スの上接語の問題として捉へることができる。よつて、次に、いかなる文構造においてサ変動詞が用ゐられるかをみておかうと思ふ。前に源氏物語（注8）におけるサ変動詞と対照して検討した。大筋において、先述の通りであるが、本稿の対象たる七十五巻本以外も対象にしてあり、この点多少問題もあるので、詳細は省略するが、七十五巻本について整理した結果を改めて記しておきたい。（注9）

(三)単独サ変動詞の用ゐられる構文

サ変動詞の用ゐられてゐる構文を分類した結果は次の通りである（構文の整理番号は前稿に用ゐたものを踏襲する。〔　〕印はこの部分が存する場合と存しない場合とがあることを示す）。

1動作行為を表はす（ヲ型）（49例）

イ〔体言〕＋〔ヲ〕＋〔係・副助詞〕＋〔副詞相当語句〕＋ス（44例）

ロ動詞連用形＋〔係・副助詞〕＋ス（5例）

2作用を表はす（ガ型）（例なし）

3状態を表はす（デ型）（例なし）

4認定・変化の状態を表はす（441例）

イ体言格＋ニ＋ス（〜ヲ〜ニス）（14例）

ロ体言格＋ト＋〔係・副助詞〕＋ス（〜ヲ〜トス）（388例）

a体言格が一語であるもの（301例）

b体言格が一句又は一文であるもの（87例）

ハ形容詞連用形・形容動詞連用形又は副詞相当句＋ス（39例）

5意志・推量を表はす（助動詞型）（77例）

イム＋ト＋ス（75例）

ロ終止形＋ト＋ス（2例）

6慣用句（26例）

右のそれぞれについて該当例を掲げようと思ふが、それに先立ち、若干注意すべき点を述べておく。

まづ、数量的には、4のロが圧倒的に多く、同様の構文4のイと著しい対照をなしてゐる。

・血出ヲ度トセントスルカコトシ（洗面　十45オ4・中307 7）

●**ナリ**下接例（33例）

・コレヲ聞着セン人ハ海執ヲ動着セントスルナリ（海印　三22オ2・中76 10）

。**陳述的用法**（34例）

●**結び**（13例）

・コノ生死オヨヒ生死ノ見イツレノトコロニオカントカスル（身心　一33ウ7・中123 3）

・モチヰヲシテイカニ点セントカスル（心不二22オ8・上264 9）

●接続助詞**ニ**下接例（17例）

・一道ノ化儀タトルヘキニアラスタトランスルニ箭鋒相拄セリ（行仏　二15オ1・上360 1）

・殺仏ノ相好光明ハタツネントスルニカナラス坐仏ナルヘシ（坐箴　三10オ3・上403 9）

●終助詞**カ**下接例（1例）

・マタ大悟底人ノ却迷トイフハサラニ一枚ノ大悟ヲ拈来スルヲ却迷トスルカトカタ〈参空究ヒスヘキ也（大悟　二33オ2・上392 7）

●終助詞**ゾ**下接例（1例）

・ナニトイフ魔党ノワカ仏如来ノ道ニマシハリケカサントスルソ（仏性　一23ウ10・上333 1）

●**中止形**（注7）（3例）

・世尊在世ニ一毫モタカハサラントスルナホ百千万分ノ一分ニオヨハサルコトヲウレヘオヨヘルヲヨロコヒ違セサラントネカフヲ遺弟ノ畜念トセルノミナリ（仏道　九44オ9・中231 4）

・カクノコトクスルミナコレ浄仏国土ナリ（洗浄　十一27オ2・上115 11）

この中止形の用例は、後者は、連体形の準体言的機能によるものであり、前者は一種の接続句をつくるものである。但し、前者も、活用形の機能としては、やはり連体形のもつ体言的資格に依存したもので、用法としては陳述的であるが、その根拠は準体言的用法と同じものである。

●**ト**下接例（2例）

・人ヲ鏡トスルトキキテハ博覧ナラン人ニ古今ヲ問取セハ聖賢ノ用舎ヲシリヌヘシタトヘハ魏徴ヲエシカコトク房玄齢ヲエシカコトシトオモフ（古鏡　四51オ2・上289 2）

・コレヲカクノコトク会取スルハ太〔↑「大」〕宗ノ人ヲ鏡トスルト道取スル道理ニハアラサルナリ（古鏡　四51オ5・上289 15）

これは、連体形が終止形の代用をしてゐるとみるべきものである。

已然形（12例）

。**バ**下接例（8例）

・コヽロサシノアサカラヌヲサキトスレハカタヱニコユル志気アラハレケリ（一顆　二17オ8・上89 15）

・測度ヲ論セントスレハ徹底ノ清水ノミナリ（坐箴　三14ウ8・上408 12）

前者は確定条件、後者は仮定条件である。

ハチ仏トスト〔この下傍書〕オモヘリ（即心一38ウ5・上101 7）

・タトヒ減一日セントストイフトモ九十日カヘリキタリテ競頭参スルモノナリ（安居十五6オ7・下78 5）

○**トモ**下接例（6例）

・我会也ノ会ヲ我ナリトストモ爾作麼生会ニ爾アルコトヲ功夫ナラシムヘシ（観音　四41ウ8・中94 15）

・タトヒイマ人間〔↑「問」〕ノ可見ノ草木等ヲ認シテ無情ニ擬セントストモ草木等モ凡慮ノハカルトコロニアラス（無情　十4ウ2・中271 8）

○**ラム**下接例（1例）

・ワレラカナニトミルカタチヲカレラカ水トスラン（山水　六19ウ3・222 4）

連体形（126例）

○**連体法**（32例）

・タトヒ大唐国裏ニ一人ノ不悟者ヲモトムルニ難得ナルヲ究竟トスルコトナカレ（大悟二31ウ10・上391 14）

・タレカナンチカ宗ヲ宗トスル仏児孫アラン（仏道　九44オ7・中231 3）

○**準体的用法**（57例）

・**単独例**（2例）

・タレノカタヲヒトシクスルカアラン（行持下　四4オ2・中42 4）

・仏道ヲモテ名利ノカケハシトスルノミオホシ（谿声　五29オ2・上139 12）

・**ヲ**下接例（1例）

・アハレムヘシ天童ヲシラサルヤカラハ胡乱説道ヲカマヒスシクスルヲ仏祖ノ家風ト錯認セリ（行持下　四25オ8・中65 14）

・**ハ**下接例（6例）

・モシコレヲ非トスルハ捨父逃逝ナリ（見仏十二3オ3・中344 7）

・**マデ**下接例（1例）

・ツキニ右手ニ〔乾本ニ脱〕皂莢ヲトリテ小桶ノ水ニサシヒタシテ両手ヲアハセテモミアラフ腕ニイタラントスルマテモヨクアラフナリ（洗浄　十26オ6・上114 10）

・格助詞**ニ**下接例（2例）

・名利ヲモトムルヲ学道ノ用心トスルニニタルトモカラオホカリ（谿声　五30ウ3・上141 8）

・**ニハ**下接例（4例）

・アルイハ為人ノ手ヲサツケントスルニハ臨済四料簡四照用雲門ノ三句洞山ノ三路五位等ヲ挙シテ学道ノ標準トセリ（仏経　十17ウ8・中260 14）

・**ニモ**下接例（4例）

・因縁ヲ請益セントスルニモ礼拝スルナリ（陀羅　十30オ10・中289 10）

・格助詞**ガ**下接例（3例）

・シ〔衍字〕カノトキノ〔↑「ク」〕見得ヲマコトヽスルカユヱニ〔乾本ニ脱〕イマノ道得ナルコトハ不疑ナリ（道得　七31オ6・中139 13）

・ワレヲ排列シオキテ尽界トセリ（有時　四63ウ4・上159 12）
・疑滞ヲ疑滞トセルコト三十年サシヲカサル利機トイフヘシ（行持下　四17オ9・中57 5）

○**ム**下接例（71例）

・雲煙イクカサナリノ嶮浪ナリトカセン（行持下　四2オ5・中40 4）
・ナニトシテカサラニ山色ヲミ谿声ヲキク一句ナリトヤセン半句ナリトヤセン（谿声　五26オ1～2・上136 2～3）

○**バ**下接例（10例）

・モシ自立スル道理ヲ正道トセハ仏法ハヤク西天ニ滅シナマシ（仏道　九36ウ6・中223 14）
・モシ世尊ノ有言浅薄ナリトセハ拈花瞬目モ浅薄ナルヘシ世尊ノ有言モシ名相ナリトセハ学仏法ノ漢ニアラス（密語　九48オ6～7・中249 13～14）

○**シ**下接例（4例）

・容易ニセシハ不是ナリ（心不　二24ウ9・上267 8）
・仏祖ナニヲモテカ学道ノ標準トセシ（仏経　十19オ6・中262 5）

連用形（128例）

○**テ**下接例（107例）

・カクノコトクシテ頭々ニ辺際ヲツクサストイフコトナク処々ニ踏翻セストイフコトナシトイヘトモ…（現成　一4ウ3・上86 5）
・モシ行李ヲシタシクシテ箇裏ニ帰スレハ万法ノワレニアラヌ道理アキラゲ（ケか）シ（現成　一3オ6・上84 8）

○**中止法**（19例）

・カナラスシモ能説ヲスクレタリトシ能聴是法者ヲ劣ナリトイフコトナカレ（行仏　二14ウ1・上359 8）
・シカアルヲ拳拈シテ大悟ヲウルハシトシ身心ヲモヌクル道トセリ（恁麼　四30ウ8・上425 2）

○**ケリ**下接例（2例）

・竹ヲウエテトモトシケリ（谿声　五27ウ1・上137 12）
・カノ伝蔵ヤマヒシケルニ隆禅ヨク伝蔵ヲ看病シケルニ勤労〔↑「学」〕(注5)シキリナルニヨリテ看病ノ労を謝センカタメニ嗣書ヲトリイタシテ礼拝セシメケリ（嗣書　八36オ4・上243 6）

終止形（107例）

○**断止**（53例）

・自己ヲハコヒテ万法を証スルヲ迷トス（現成　一2オ10・上83 8）
・却迷ハ認子為子ナリ多処添些子ヲ大悟トス（大悟　二33オ7・上392 12）

○**ベシ**下接例（44例）

・アシノサキオノ〳〵モヽトヒトシクスヘシ（坐儀　三2ウ10・中324 1）
・大衆オヨヒ人々ヲヨムテ僧堂仏殿厨庫三門トスヘカラス（光明　三37ウ8・中118 7）

○**ト**下接例（3例）

・イハユル即心ノ話ヲキヽテ癡人オホモハク(注6)ハ衆生ノ慮知念覚ノ未発菩提心ナルヲスナ

正法眼蔵のサ変動詞

――その用例――(一)

田島毓堂

一

正法眼蔵におけるサ変動詞の特殊の用法、その用語意識等については、前に述べたことがあるので[注1]、本稿においては、中世国語史料の一つとして、七十五巻本正法眼蔵[注2]のサ変動詞の用例を掲げ、その注意すべき点を指摘し考察を加へようと思ふ。

サ変動詞には、単独で用ゐられるものと、和語と複合サ変動詞を造るものと、漢語と複合サ変動詞を造るもの、及び、和語、漢語の複合語と合してサ変動詞を造るものとがある。

以下、順を追つて述べる（但し、与へられた紙数の関係で、途中で切れることをあらかじめお断りする）。

二、単独のサ変動詞

(一)用例数――五九三例（未然形二二〇、連用形一二八、終止形一〇七、連体形一二六、已然形一二）

未然形下接語[注3]

ズ 17　ム 71　バ 10　シ 4　リ 118

連用形下接語

テ 107　ケリ 2　中止形 19

終止形下接語

断止 53　ベシ 44　ラム 1

ト 3　トモ 6

連体形下接語

連体法 32　準体的用法 57（単独2、ヲ1、ナリ33、ノミナリ1、ニ（格助）2、ハ6、ニモ4、ニハ4、ガ3、マデ1）　陳述的用法 34（結び13、カ1、ト2、ニ（接助）17、ゾ1）　中止形 3

已然形下接語

バ 8　ドモ 3　ド 1

(二)用例（一部のものを掲げる）

未然形（220例）

○**ズ**下接例（17例）

・澡雪ノ操ヲ操トセサルニヨリテシカアリケルナルヘシ（行持下　四12ウ1・中51 13）[注4]

・名位ヲヒトツニセス（画餅　五19ウ2・中147 12）

○**リ**下接例（118例）